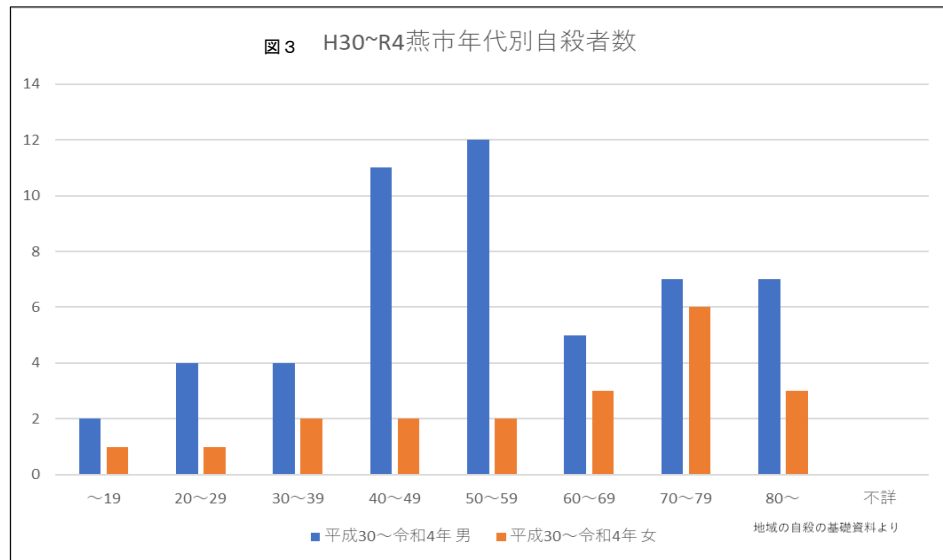
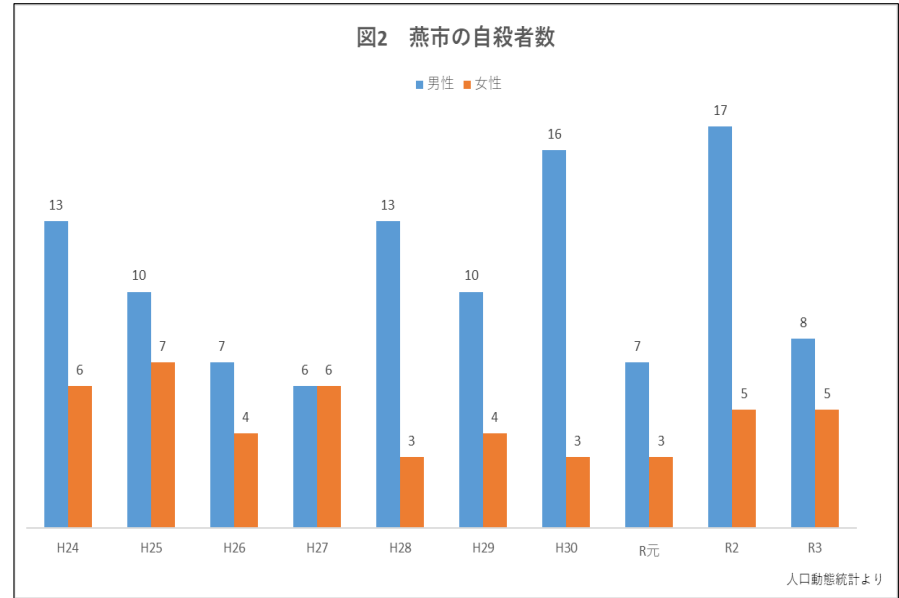
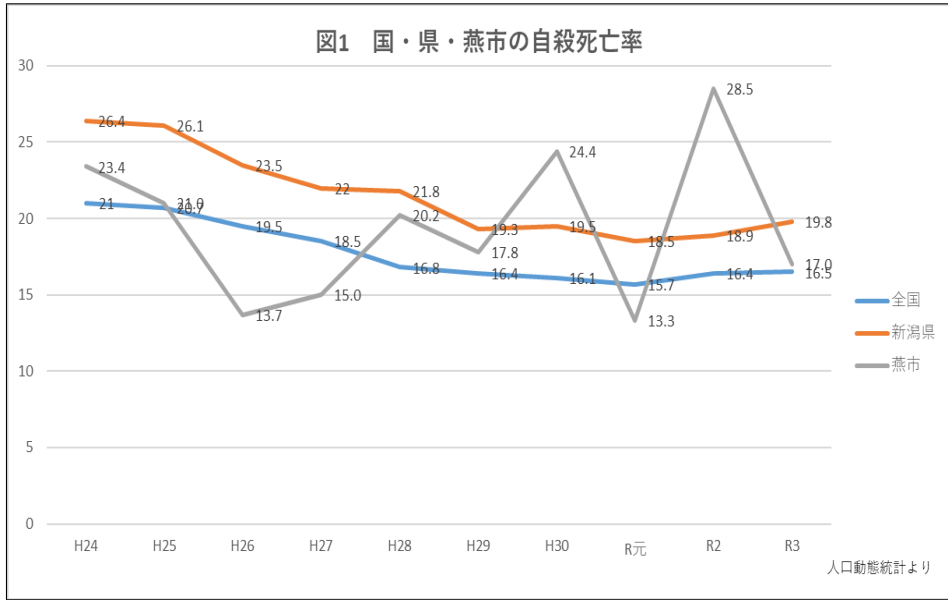


燕市の自殺の現状



【現状】

図1 燕市の自殺率は、令和3年は県より低い、国より高い。

燕市は人口密度が小さいため、自殺者1人の増減で死亡率が大きく変動してしまう特徴がある。

図2 燕市の自殺者数は、女性より男性が多い

図3 男性は40~50歳代の自殺者が多い。

女性は年齢と共に、自殺者が増える傾向がある



【これまでの対応】

- ・特定健康診査、後期高齢者健康診査で「こころの元気度スクリーニング」を実施。「元気でない」と回答した人には、個別相談会の周知。
- ・特にハイリスクの人には、個別面談、訪問指導などで対応。
- ・こころの健康相談を随時実施。
- ・こころの健康の普及啓発のため「こころの健康スワロー運動」リーフレットを世代ごとに作成。関係者に配布している。
- ・社会福祉課と共同で「こころの健康講座」を実施。働き盛り世代も参加しやすいように土曜日に開催(燕市商工会が共催)。
- ・「一般」「教諭」「専門職」「市職員」と対象をわけ、ゲートキーパー養成講座を実施。

【不足していた支援】

- ・相談方法が対面や電話に限られていた。
- ・夜間や休日に相談できる場所が少なかった。

【今年度 新たな対策】

若年層、働く世代が気軽に相談しやすいように、SNS相談体制を強化しました。

- ①燕市 健康・医療・子育てLINEから、SNS相談に入りやすくなりました。
- ②NPO法人ライフリンクと連携自治体協定締結を行い、フォローしていきます。

「燕市健康・医療・子育てLINE」からの相談の仕方



自殺対策推進会議での委員からの意見

【関係機関で実施している相談支援体制】

- 社会福祉協議会
 - ・1回/週 困りごと相談
 - ・2回/月 弁護士相談
 - ・3回/月 LINE相談
- 自治会
 - ・まちづくり協議会でよろず相談会を実施
- 学校関係
 - ・高校、中学校、小学校がそれぞれSOS出し方講座を実施。
(講座の内容については、学年だよりなどで保護者にフィードバックしている)
 - ・1回/月 いじめアンケートを実施。
(タブレットから回答でき、翌日に先生が対応している。)
 - ・教育相談日で、担任-生徒との1対1の時間を設けている
- ハローワーク
 - ・1回/月 臨床心理士との相談会を実施している(県事業)
- 三条保健所
 - ・こころの健康相談(随時)
(「身近なところで相談したくない」という人は、保健所を利用する)
 - ・自殺未遂者支援

【自殺対策、メンタルヘルスのためのアイデア】

- ・「こころの健康スワロー運動 シニア版」にも二次元コードを付けてほしい
- ・老人クラブ地区連合会など、人が集まる機会での周知をしてはどうか。
- ・小学生の時から「スワロー運動」の啓発をした方がよいのではないかな。
- ・経営者はメンタルが強い人が多いという印象なので、従業員が弱っていることに気づかないこともあるかも。こころの健康に関心のある企業も増えてきているので、総会等で周知してみてもいいのではないかな。

【今後の対応策】

- 働き盛り世代
 - ・スワロー運動協力企業へ「こころの健康スワロー運動」リーフレット配布や啓発活動を実施。相談につながるよう、二次元コードを掲載。
- シニア世代
 - ・「こころの健康スワロー運動 シニア版」リーフレットを地区活動等で周知。
 - ・老人クラブ連合会の地区集会など、人が集まる機会をとらえて周知。
- 若者世代
 - ・「こころの健康スワロー運動 若者版」カードを作成し、二十歳のついでなど若者が集まる機会に周知予定。